



未来を夢見て Season3

2022/8/26 No. 155

2学期スタート 今日来ただけでも🌻です！

～いろいろな物語を読む いろいろな人を見る 最短がすべてじゃない～

夏休みが終わって、子どもたちの元気な声と明るい笑顔が学校に戻ってきました。

教室の黒板には、先生方から子供たちへのメッセージが書かれていて、2学期も、子供たちに寄り添い、一緒に頑張っていこうという先生方の熱い気持ちが伝わってきました（写真は上から1年4組、2年3組、3年3組の黒板）。

2学期は10月に音楽発表会、11月には6年生の修学旅行、そして多くの学年で校外学習などが予定されています。コロナの影響が今後も心配ではありますが、これまでの感染症対策をもう一度徹底し、何とか乗り切っていくたいものです。

さて、一番下の写真は重松清さんの小説『青い鳥』。主人公は中学校の国語の非常勤講師の村内先生。実はこの村内先生、国語の先生なのに言葉がつかえてうまく話せません。でも先生には・・・。八つの短編集を通して、私たち教師にとって、何が本当に大切なのか、問いかけられているかのような作品です。

先日何気なくテレビを見ていたら、NHKのBS1で重松清さんが指導者の『奇跡のレッスン』放映されていました。子供たちが作文を書くことがテーマなのですが、その番組の中での重松さんのインタビューがとても印象的でした。

実は重松さん、御自身も吃音で大変ご苦労されたそうです。ただ、文章を書くことに出会い、文章なら吃音にならないので徐々に自信が芽生えていきます。ところが大学に入って、作家を目指しますが、今度は偉大な先輩方の姿に自信を失っていきます。そんな時、当時関わっていた仕事で書いた文章が編集者の目に止まります。そして小説を書くことをすすめられ、作家として歩み始めることにつながります。この時のことを重松さんは「自分にしか書けないジャンル（居場所）を見つけることができた」と述懐しています。重松さんの作品には小学生や中学生が登場する作品が多いことも特色の一つですね。

さて、「いろいろな物語を読む いろいろな人を見る 最短だけがすべてじゃない」は重松さんが子供たちに伝えていたことの1つです。実際番組でも子供たちは作文を書くためにたくさん街中を歩き回ります。

今日ある先生の教室に伺ったら、黒板に「今日来ただけでも🌻」と書いてありました。何となく共感できて（そうだよなあ）と思わず納得させられました。

子どもたちも先生方も夏休み明けは生活のリズムが変わって一番しんどい時。2学期始めの大切な時期ではありますが、こんな時こそ少しでも気持ちにゆとりをもって新学期を始めたいものですね。

最短だけがすべてではない、ことを念頭に。

